

令和元年度 第3回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和元年8月6日（火） 18：30～20：00

【場 所】 浜益支所 2階庁議室

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 新市建設計画協議依頼(浜益区地域協議会)
- 3) 新市建設計画変更基本方針
- 4) 自治区延長基本方針
- 5) 石狩市長への回答【浜益(案)】
- 6) 地域協議会第7期を振り返って集計

【出席者】 10名（15名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	三上 正信		委員	渡邊 真奈美	○
副会長	大久保 満彦	○	委員	辻 カヨ子		委員	大浦 浩	○
委員	寺山 広司	○	委員	羽立 裕子	○	委員	徳地 克実	○
委員	門脇 弥		委員	岸本 紀子	○	委員	石川 宗	○
委員	小田 則貞		委員	中元 義晴	○	委員	瀧 勝明	

（浜益支所） 松田支所長、成田市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）、
宇野市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）

（事務局） 佐々木地域振興課長、藤巻主査

（市） 加藤市長

（企画経済部） 中西次長、三上主任

【傍聴者】 0名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 協議事項
 - ① 新市建設計画「合併まちづくりプラン」の計画変更に係る基本方針及び地域自治区の設置期間延長に係る基本方針について
 - ② 第7期地域協議会の総括について
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

2 市長あいさつ

【加藤市長】

平成 13 年に石狩に道から派遣をされて、その時に平成 14 年から合併の問題に当時の田岡市長からお話があり、自分が石狩の課長として取り組んで、そこから市町村合併を議論した当事者の一人である。

地域協議会は、皆様それぞれ立場があって、仕事を持ち、いっぱい用事があるのに大体月 1 回、夜の時間に集まっていただき、まちづくりについて議論をしていただくことに、本当に敬意を表す。

地域協議会は、市町村合併をした後に設けて、まちづくり、地域づくりについて議論をし、例えば、まちづくり基金の意思決定をするという、非常に大きな役割を持っている組織だと思っている。平成 17 年に合併し、もう 14 年経っている。道内には、確か 22 の合併が行われたが、石狩にある浜益区、厚田区の地域協議会は、非常に評価が高く、例えば、ほかの地域では、地域協議会があるものの、会議すら開催されていないというところもある。石狩市は合併に際し、厚田村、浜益村と、きちっとした議論をしたことによって、与えられて合併した自治体ではないと思っている。その観点から、皆様方がきちっとした議論をしていただくことが、非常に大事なことで、今後もまちづくりのためには、必要なことと思っている。今回の協議事項に新市建設計画の変更、地域自治区の設置期間の延長に伴う意見聴取がある。これは、合併特例債が、また延長になり 2025 年まで使えることとなっている。引き続き地域自治区の延長についても必然的に 2025 年まで行われる。

今回と次回に地域協議会の総括が議論される。この第 7 期、皆様方はどのような議論をして、どういふ浜益区の将来ビジョンを描いて、どんな形の浜益になったのか。それがなければ、次の第 8 期につなげないのではとの思いがある。例えば、先日開催した「みなと祭り」は、一つの地域住民の自治の塊なのかと思っている。

皆様をお願いしたいのは、第 7 期が、その総括をきっちりし、第 8 期に引き継ぎ、そして、より良い浜益区にしていきたいということである。積極的な議論、意見交換をしていただきたいと思っている。是非良い形でこの協議会が発展することを願っている。

3 会長あいさつ

【宮田会長】

今年は比較的好天に恵まれ、稲の生育も順調に進んでいる。サクランボシーズンもほぼ終わったが、来客者も多かったと聞いている。畑作はこれまで雨が降らない時期が長く続いたが、今後悪い影響が残らないよう、願っている。浜はナマコ漁が終わり、ウニの時期である。しかし、海水が濁って思った量がまだないと話を聞いている。農業も漁業も安全作業、安全操業に気を配っていただき、今後に期待していきたいと思っている。

気温の高い日が続いており、川下ではテント数も増えてきている。ピリカビーチの関係者の方々には、安全、安心で快適なビーチとして来場者に喜ばれるよう、残り期間、よろしく願いたい。

7 月、8 月と祭り、イベントが続いた。先日の浜益神社例大祭には、札幌からのツアーも組まれるなど多くの見物客で賑わった。その様子がテレビでも放送されていた。週末の土曜日には、ヘルシーウォーク、みなと祭りが開催され、会場は区内外の方々であふれていた。メインイベントの 3,000 発の花火には、会場では拍手と歓声に包まれ、握手する人やハグをする人など感動的なフィナーレとなった。翌日はトラックアート、浜益小劇場の定期公演もあり、浜益の魅力満載の感動的で充実の週末であったと思う。

私たちにとってはどれも楽しく胸躍るイベントであるが、それまでたくさんの関係者が時間をかけ、知恵を絞って作り上げているものであり、改めて関係の皆様へ感謝を申し上げたい。

4 協議事項

(1) 新市建設計画「合併まちづくりプラン」の計画変更に係る基本方針及び地域自治区の設置期間延長に係る基本方針について

- ・企画経済部企画課から、委員に配布した資料に基づき説明した後、協議し了承した。

【宮田会長】

- ・合併に関する計画、いわゆる合併まちづくりプランの一部変更、浜益区と厚田区が設置される根拠となっている地域自治体の設置期間の延長について、いずれについても法律に基づいて、地域協議会の意見を聞くことになっている。このことについて、皆さんからご意見や確認事項があれば、発言をお願いしたい。ざっとした説明だけでは理解できない部分もあるが、意見等はないか。
- ・今回の変更は、個々の事業内容については、触れないということか。

【中西次長】

- ・前回と同様に期間の延長についてである。

【宮田会長】

- ・その中には年度ごとの事業が具体化されていくということか。

【中西次長】

- ・それについては、毎年度の議会審議を含めて、予算付けをされて、行われていくことになる。

【宮田会長】

- ・この計画に基づいてということか。

【中西次長】

- ・そうである。

【宮田会長】

- ・地域自治体、浜益区と厚田区合併当初から設置されているが、今回は計画の変更、延長について、異議なしであっても、もう少し将来的に、地域自治体がなくなるとした場合、その時にはどのような状態になっていくのか。

【中西次長】

- ・その時の地域の皆様の考えが非常に大事になるかと思うが、地域として何が必要かとのことで、地域協議会、こういった場が必要だとの意見があれば、法律等にかかわらず続けるということもあり得るが、5年先のことなのではっきりとは言えない。

【寺山委員】

- ・合併まちづくりプランは、合併後のものか。

【佐々木課長】

- ・平成16年に合併の計画を作っている。その計画期間が定められていて、最初は11年、プラス5年で16年間になっているが、それに更にプラス5年で21年間に延ばすという提案である。

【宮田会長】

- ・意見等なければ、資料の一つに今議論されている計画の変更と設置期間の延長についての回答があるが、当協議会として決定してよろしいか。

【各委員】

- ・はい。

【宮田会長】

- ・記載の内容で、石狩市に意見書を提出する。

(2) 第7期地域協議会の総括について

- ・各委員から事前に提出された振り返りの意見等を集約した資料に基づき、浜益支所地域振興課から概要の説明を行ったのち、それぞれの意見等について全体で意見交換を行った。次回の協議会において、最終的な総括をすることとなった。

【宮田会長】

- ・先ほど加藤市長からの挨拶でもあったが、これまでどのような議論があつて、結果どのようなになったのか、そして、次期につなげるための課題等が明確でなければ、前に進むことができないとのお話があつたが、そのとおりだと思っている。7期の2年間、委員を務めていただき、振り返って、色々と気が付いたことがあれば、自由に発言していただきたい。今回意見を出していない方も自由に意見を出してほしい。
- ・会議のあり方について、各報告のみではなく、支所との連携を図りながら、自由な意見交換ができる場づくりが必要であると感じている。
- ・要望、陳情、批判はダメとなっているが、その先に協働のアイデアが出ることもある。
- ・特に農業振興や漁業振興など、本来行政が担うものと基金を活用するものを明確にする必要がある。
- ・ただの理想、夢物語ではだめであつて、現実への道筋など深掘りした提案が必要であると考えている。
- ・老若男女問わず、職域問わず、地域の方々の色々な意見が取り入れられる協議会でありたいと思っている。
- ・次回の協議会で最終的なものを見出していきたいと思っている。今日は、たたき台として、自由に発言をお願いしたい。

【渡邊委員】

- ・委員は、団体推薦でなく、積極的な意見を持っている方が良いが、なり手がいない。
- ・宮田会長がみんなの意見が出しやすいような進行をしていただき感謝している。
- ・協議会が続くのであれば、まだまだ変える必要があると考える。

【宮田会長】

- ・各団体から推薦をいただいている委員については、その都度団体としての意見はないのかも知れないが、協議会で取り上げてほしい話題、行政に言ってほしい意見でも構わないと思う。各団体の会議、総会、役員会で地域協議会に話題がないかを話し合い、団体でも議論する考え方もあると思う。ぜひ協議会を活用、利用してほしいと思う。

【大久保副会長】

- ・年2回の定例会で意見交換はしているが、年間を通した単位自治会間の連携を図りつつ、意見要望等を取りまとめ、支所との連絡調整を行う事務局的な人材が必要だと考える。

【大浦委員】

- ・保育園が中学校敷地に建設されるとの提案があつた事業計画について、一度説明があつたが、その後のスケジュール感等、市からの情報提供がないので、その都度報告が必要と考える。

【宮田会長】

- ・そのあたりが問題だと思う。毎回アイデア、疑問があるかと思うが、それに対して、その場で回答できなくても次の会議の時にそれに対する情報提供をきめ細かくしてもらえれば、それに付随して議論が生まれ、深まっていき、継続していくと思う。そこで途切れてしまうことが問題である。
- ・地域協議会の在り方は性格上、要望、陳情の組織ではいけないと思っている。
- ・疑問、アイデア等、次の協議会までに整理し情報提供をしてほしい。

【佐々木課長】

- ・地域協議会の意見を要望と言うのか提案と言うのか、提案は良くて要望はだめといつても中身はそれほど変わらないと思う。ただ、要望、陳情はだめというのは、一方通行で、ひたすらこれもあれも実行してほしいと、深い議論もなしに矢をどんどん打ち込むのではなく、この協議会の場で考えて、それを行政に提案する。それも形態としては同じことではあるが、そのことを伝えたかたのではないかと思う。だから、要望、陳情ではなく、議論をし、最後に支所を通じて本庁に提案していただくのと良いと思う。

【大浦委員】

- ・それを提案した時に支所の段階で、難しいとなることもある。そうではなく、支所が良いとなって本庁に提案することもある。いずれにしても結果が、どのようなになっているのかが、先ほどの保育園の件もそうだが、なかなか見えないので、個々に伝える必要があると思う。

【佐々木課長】

- ・4月に意見が出て、企画課からは今年の予算で検討中との回答だったが、現在も検討中で、まだ皆さんに報告するまでに至っていないのが、今日現在の状況である。そのことを伝えるべきだったと反省している。また、前回の地域振興のアイデアで、カフェ・ガルの活用のお話、3階の旧議場

の活用も考えているが、次のステップに移る手立てが立っていない状況である。

【大浦委員】

- ・当然、実行にあたって、予算も関わってくることで、計画を立案するのに各部署との協議があり、最終的に決定するので、時間が掛かるのは理解できるが、その目途、スケジュールの報告がなければ、何も進まないのではないかと思っている。それで、行政と民間で様々な模索ができないかとの提案もしたが、行政を通すと時間が掛かる。時間が掛かりすぎると現在の生徒が卒業し、教師もいなくなり、予算が付く時にはその経過が分かっている人がいない。それで、民間では、そのスピードが速いと思っている。予算が絡むのは慎重さが必要だが、カフェ・ガルの活用は、5年もすると施設自体が使えなくなってしまうと思う。民間を活用することを視野に入れることも必要である。
- ・行政は予算の関係もあり、時間が掛かる。民間だとスピードが速い。行政を通したほうが良いものと、民間を活用したほうが良いものとの区別が必要であると考えている。

【宮田会長】

- ・確かに前回説明のあった柏木と川下の会館、中学校、保育園、消防も絡めた問題については、各地区での説明会は行われたようだが、その後どのように進められているのか、その前にたたき台だったのかもしれないが、その場所に作ろうとした経過、どのような経過を踏まえ、その場所に提案したいとのことをどのように説明してきたのか、そこが不明確で、住民にとっては分からない、だから次の説明会の時には、意見が整理できなくなるほどどんどん意見が出ると思っている。その途中経過を含め説明があれば、まず地域協議会にでも報告があれば、各委員から色々と情報が伝わるので、そのことが大事だと思う。まず住民とのコミュニケーション、支所はもちろんだが、本庁の職員も現場を実際に確認しながら、住民との意見交換を十分に図りつつ、地域協議会との情報共有をしてほしいと思う。

【佐々木課長】

- ・地域協議会が、浜益区のまちづくりのセンター機能を担うためには、大浦委員や宮田会長のご意見のとおり、情報共有を途中経過であってもできる限り、本庁と地域協議会をつなぐ支所として、やるべき任務だと思っている。地域協議会での振り返りとしては、情報共有が大事であるという部分は、今後活かしていきたい。関連として、地域協議会は色々な声を受け止める、ということがあるべき姿で、前回中学生がプレゼンして、活動内容が報告され、それは、陣屋、わかもん会、色々な団体が発足し活動していて、時にはその方々の活動内容や問題点をこの場で報告して、地域協議会の内部だけで議論するのではなく、各団体を巻き込むことも先ほどから意見が出ている受け止める一つの活動で、そういった役割も地域協議会には求められていると思っている。

【宮田会長】

- ・各委員は、一般の区民であり、行政のシステム、法令など、なかなか理解できない。それを担当者が細かく説明していただければ、それぞれの問題に対する理解も深まっていくと思う。

【石川委員】

- ・支所、本庁からの報告があるが、過去に本庁の説明で、ただ図面上での説明で本当に現地を確認しているのか疑問を持ったこともある。
- ・地域協議会で議論された案を提案として出すが、最終的には予算だが、その過程が見えない。少しでも早い情報の提供を希望する。

【中元委員】

- ・自分は高齢者で、色々と説明を受けるが、ついていけないことが多かった。

【羽立委員】

- ・案件が難しいと感じていた。役所出身者はそれなりの知識、感覚があって案件に意見を言うことができるが、私にはその知識がないので、その場でどのようなことが望まれ、どう答えをすれば良いのか、キャッチボールの仕方が常に難しいと思った。
- ・婦人会であるが、浜婦連、単会ともに高齢化となっていて、役員の選任も難しくなっている。ある地区では70歳までだったが、人数が少なくなり、75歳まで引き上げた。それでも会議の際に75歳近くになって、役員として復帰するが、なかなか頭がついていけない。一人で役員になるのはきついで、役員を増員している。人数が不足の中で、婦人会を継続しているのが非常に難しいので、何か違う形での婦人会で継続していけないのかと思っている。

【岸本委員】

- ・案件が難しいので、分からないことが多く、大変だった。浜益のことをこの地域協議会で初めて聞くことが多く、色々な活動を知ることによって勉強になった。
- ・次期委員は、意見の言える、考えのある積極的な方が良いと思う。

【宮田会長】

- ・今回は自由な意見を出し合った。これを踏まえ来月の会議では、次期につながる総括にしたいと思う。今回提出されなかった方も意見等があれば来月の開催までに事務局に提出をお願いします。

【中西次長】

- ・川下と柏木のコミセンが使えなくなっている代替策として、以前、一つのプランとして、現在の保育園の場所に新しく建てる、保育園は学校の前庭に移転する、との案も一つとしてお話したかと思う。
- ・その後、現在は、新たな施設を建設できる敷地、配置、利用方法、複合化、これらについて、複数の可能性をコンサルに委託をかけて調査している。その状況は、今後、秋くらいまでに一度皆様にお伝えできればと考えている。地域協議会という場になるかは分からないが、地域の方と話をして次の方向性を決める形を秋までにやっていきたい。保育園を移設との話も出ていたが、保育園については、0歳児をどのようにするのかとの話題も出ていて、施設が今のままを含めて、新たに必要部分があるとか、人材の確保の部分も出てくるので、なかなかそちらの進み具合のほうが厳しいかとの感覚は今のところ受けている。
- ・話題の提供として、厚田の地域協も出ているが、厚田は毎月必ず1回ある。難しい話ばかりではなく、参加者の皆様と行政も含めて、地域の話提供、お茶飲み話的なものを含めて、開催されている。地域の皆さんそれぞれに知らない話もあるようなので、そういったことを気軽に話せるような時間を作りながら進めるというのも効果的だと感じている。

【宮田会長】

- ・今のコミセンなどの情報提供、正にそのような情報をお願いしたい。地域に入ると収まりのつかないような事態など、なかなか入りづらいとは思いますが、地域協議会でも自治会の会議でも構わないので、細かく入って説明をしてもらえれば、だんだん理解が深まって、事業がスムーズに進んでいくのではないかと思っている。ぜひ、これからも今のような細かい情報を区民に提供していただきたい。

5 その他

(1) 各種情報提供について

- ・各委員から情報提供があった。

【大浦委員】

- ・8月23日、24日に市内小中学校の校長会が、8月17日に市内小中学校の教頭会が、浜益区で開催される。

【寺山委員】

- ・山形出身の奥田シェフが、8月31日から石狩市を訪問し食材を集め、翌日、札幌国際大学で調理をした料理をグランドホテルで提供する。

6 次回の開催日程について

- ・第4回協議会は、9月を予定しているが、後日改めて連絡する。

7 閉 会

令和元年9月4日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉